

## 第11回 薬薬連携の会開催報告書

日時：令和7年3月19日（水）19：00～20：00

場所：日本医科大学武蔵小杉病院第1会議室

参加者数：計21名

・アイン薬局日本医大武蔵小杉病院店	8名	・フレンド薬局	1名
・アイランド薬局小杉店	2名	・ミキ薬局新丸子店	1名
・クリエイト薬局川崎下小田中店	2名	・ミキ薬局武蔵小杉店	1名
・クリエイト薬局川崎田尻町店	1名	・薬局トモズ元住吉西口店	1名
・コクミン薬局武蔵小杉店	2名	・薬局トモズ武蔵小杉店	1名
・薬樹薬局小杉店	1名		

### プログラム

19:00 開催の挨拶

（日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部 薬剤部長 笠原 英城）

19:05 「当院における外来化学療法の取り組み」

（日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部 川崎 椋太）

19:20 質疑応答

19:30 「疑義照会からのプレアボイド報告」

（日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部 主任 馬替 仁）

19:45 質疑応答

20:00 閉会の挨拶

（日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部 副薬剤部長 野口 周作）

講演に関し以下の質問、コメントがあった。

<抗がん薬に関して>

・抗がん薬による予期性の悪心嘔吐が起こり得る状況ではどのような対策を行っていますか。

⇒抗がん薬投与前にご本人に不安要素、直近の悪心嘔吐が起こったエピソード等をヒアリングし、必要に応じてベンゾジアゼピン系抗不安薬の処方提案をしています。

・院外処方にて、アプレピタント、デキサメタゾン等制吐薬調剤時における服用開始日の相違に遭遇する場面や、その他困っている事例はありますか。

⇒前回の服用開始日で処方されるケースがありますが、患者さんに直接聴取して投薬しています。大きな問題はありません。また、頓服薬は処方内容が変更となる場合が多いので毎回残薬の確認を行っています。

・院外処方にて頓服のメトクロプラミド、オランザピンが同時に処方されていた場合、服用順はどのように指導すればよいですか？

⇒レジメン上、オランザピンは定時内服しているため、作用機序の異なるメトクロプラミドから服用することが推奨されます。オランザピンは10mg/日までは服用可能ですが近年、2.5mg/日でも効果が現れる報告もありますので、適宜自己調節を行うよう院内でも指導しています。

・トレーシングレポートに関して、困っている事例はありますか。

⇒病院への報告をご本人に相談すると医師への伝達を遠慮されるケースがあります。

<プレアボイド報告に関して>

・薬局内でのプレアボイド報告事例はどのくらいの頻度で遭遇しますか。

⇒正確な件数は記録していませんが、社内にてプレアボイド報告制度があり、若手薬剤師は積極的に報告しています。高頻度な事例は、腎機能による用量調節、他院処方との相互作用、薬効重複があります。

・日病薬に報告された事例に関して、委員会から報告者に直接フィードバックするケースはありますか。

⇒優良事例選定の際、疑問点がある事例に関しては委員会より報告者へ直接聴取している。

・薬局におけるプレアボイド報告事例集等がありますか。

⇒現時点ではありません。

・保険薬局でのプレアボイド報告は、地域支援体制加算の算定要件となっています。また、薬剤師による治療介入事例の見える化を行うことの重要性は大きいため、今後も積極的な報告をお願いします。

書記 先崎